



かぎね
四万十の風音

しん せん
森&川だより

「滑床溪谷」山開き神事に併せて

かんたん木工教室を開催（松野西小学校・

松野東小学校）

○概要

4月24日、鮮やかな新緑の中、宇和島市と松野町にまたがる愛媛森林管理署管内滑床山国有林の足摺宇和海国立公園「滑床溪谷」で、松野町などが主催する山開き神事が行われました。併せて松野町が整備した滑床ビジターセンター「万年荘」の落成式も開かれました。山開きでは、両市町の関係者や地元住民ら約80人が大型連休を前に入山者の安全と観光振興を祈願しました。

町内2小学校の四年生児童で構成される森の国緑の少年団の20名も参加し、アマゴの稚魚約40匹を四万十川の主な支流の一つである目黒川に放流しました。

神事後、松野町から依頼を受けた当センターが、愛媛森林管理署の協力を得て、かんたん木工教室を実施しました。

○かんたん木工教室

今年は、新「万年荘」の屋外テラスに松野町ふるさと創生課が長机や椅子を配置してくださり、木製の「便利なスマホ台」作りをしました。使っているキットのパーツは4種類で、下絵を描いた板はスギ、三角の角材はヒノキ、スマホを乗せる板はキリを使い、完成するとスマホやタブレットも乗せれるように、軽い木、重たい木などの絶妙なバラ

ンスを計算して当センター職員が板や角材を加工して手作りで作ったものです。また、木製ピンチは既製品を調達しました。

児童達は、「メッチャ楽しい。」と言って、ほのかに香る木の香りや肌触りの良さを感じてもらいながら、色を塗って仕上げました。

○おわりに

当センターでは、この滑床の自然のすばらしさを、地元の児童に森林環境教育を通じて引き続き伝えていきます。また、利用者には安全で快適に利用してもらえよう巡視等も続けたいと考えています。



滑床山開き神事の様子



拝礼する山口正浩愛媛森林管理署長



滑床ビジターセンター万年荘の落成式



かんたん木工教室の様子①





かんたん木工教室の様子②



便利なスマホ台

固有種トキワバイカツツジの開花状況調査

(局計画課、技術普及課・愛媛森林管理署

四万十川森林ふれあい推進センター)

当センターでは、愛媛県南部にのみ自生する固有種トキワバイカツツジの開花状況調査を平成29年から毎年満開の時期に行っています。

調査は、20本の固定木について、満開日を予測して調査日を設定し、開花数・生長量等を記録するものです。今年は、4月25日に四国森林管理局計画課と技術普及課及び愛媛森林管理署の職員、総勢10名で調査を行いました。

昨年はほぼ散りかけた頃の調査となってしまった反省から、今年は3月下旬から本調査の日程調整のための事前調査を当センターで数回にわたって行い、また、宇和島市の2月以降の積算温度について過去3年間のデータと比較しつつ、蕾の大きさや色付き具合の変化なども観察した結果、今年は開花時期が一週間程度遅れていると判断し、調査日を設定し実施しました。調査当日には比較的日当たりの良い箇所

の固定木はほぼ満開を迎え、林道の法面一帯が、淡い紫色やピンク色に染まり、

その希少で可憐な存在感を放っていました。

今年の開花数・生長量については、過去の調査結果と比較したところ例年よりやや花（蕾）の数が少ない結果でした。造林木などの上層木の影響で日当たりの劣る箇所では、まだ色付きもしていない緑色の蕾が多数ついた状態の個体もあり、自生している標高や土壌、斜面の向きといった条件は同じであっても、周辺の森林環境や個体差によって満開度に差がありました。また、個体によっては全体の上部にのみ花が付いているものや、一部の枝のみ沢山の花が付くものがあり、さらに、殆どのは花色は薄紅紫色なのですが、なかには、ほぼ白色の花が占める珍しい個体もあります。周辺ではニホンジカによる食害が続いており、当センターでは、平成24年度からシカ剥皮被害防止ネット（単木保護用ラス巻き、以下、ラス巻き）でトキワバイカツツジを単木保護する取組を行うとともに、生育状況等を注視しているところです。

今後も、関係者や愛媛森林管理署の協力も得ながら、希少種でもあるトキワバイカツツジの生育環境を維持・保全できるよう、継続的な調査や巡視を実施していきたいと考えています。



調査方法を打合せの様子



固定木調査の様子



可憐な花を咲かせるトキワバイカツツジ①



可憐な花を咲かせるトキワバイカツツジ②



「R6とR7の経過の違い」

梶原町太郎川公園フェスティバル（イベント）に向けて、四万十森林管理署職員が準備作業の為、当センターに来訪

当センターでは、四万十森林管理署と森林環境教育の実施計画を情報共有し、若手職員の体験型 OJT としてスキルアップを図りつつ、双方の業務負担の軽減にもつながる取り組みをしています。

5月19日に、四万十森林管理署の職員5名が当センターに来訪し、イベントに向

けての準備（木工クラフト、木製キーホルダー作りのキット製作）作業を行いました。

はじめに、当センターの川村生態系保全係長が、通達の電動工具使用時の注意事項を周知し、また、卓上糸鋸盤の使用方法や注意点について説明しました。

その後、作業に取り掛かり、予定していた作業を無事終わることが出来ました。



卓上糸鋸盤作業の様子①



卓上糸鋸盤作業の様子②



協力して作ったキットの一部①



協力して作ったキットの一部②



ドローン講習会 IN 唐谷山を開催



5月19日、四万十森林管理署の中村森林情報管理官を講師に、ドローン操作技術の向上を目指した講習会を、藤の川・黒尊森林事務所管内の唐谷山2018林班で開催し、当センター職員2名と藤の川・黒尊森林事務所職員2名が参加しました。



滑床溪谷森とも登山を開催

(松野東小学校)

○概要

5月29日、愛媛県松野町立松野東小学校全校児童33名が滑床溪谷(国有林で足摺宇和海国立公園内)で、隔年実施の学校行事「森とも登山」を行いました。今回も当センターは学校より案内と森林環境教育の要請を受け、環境省土佐清水自然保護官事務所及び滑床ビジターセンター万年荘(以下、万年荘)と連携して実施しました。

○実施内容

午前中は、春の静かな小雨の中、万年橋(標高340m)から、日本の滝百選に選ばれている雪輪の滝(標高530m)を目指して往復約3km、高低差190mの登山を行いました。往路は、溪谷右岸の遊歩道沿いの樹木などを学習しながら、清流と滑らかな岩肌がつくり出す多彩な変化や森林の緑など、自然の美しさや雄大さに触れました。溪谷の見所は数多く、鳥居岩では、漫画の「鬼滅の刃」を連想させる二つに割れた大岩や出合滑の川床いっぱい広がった大きな花崗岩の一枚岩などに会いました。雨も、遊歩道の大木が大きな傘となって受止め、水滴はあまり落ちて来ません。そして、約1時間で、雪輪の滝に到着し、滑らかな大きな岩肌を流れる水が、まるで雪の輪のような波紋を残しながら落下する様を目の当たりにしました。

復路は、左岸の滑床林道を下りながら五感を使って自然の宝物を探すネイチャーゲームの「フィールドビンゴ」などを行いました。また、下山中には、モモンガや両生類のアカハライモリ・カジカガエル・ツチガエルの他、サワガニなどに多数遭遇でき、みんな貴重な体験ができて少し興奮していました。森林に響く鳥のさえずりや雄のカジカガエルが放つ「フィー、フィー」と鹿の様に高く澄んだ鳴き声、緑のシャワーを浴びなが

ら自然とふれあい、万年橋まで約1時間で無事に帰ってきました。

午後からは、万年荘内で、校長先生から「森とも登山」の森ともについての意味のお話、そして、環境省土佐清水自然保護官事務所の^{こばやし かいと}小林皆登さんと^{はぎの しんこ}萩野新子さんから、「^{あしずり}足摺^{う わ かい}宇和海国立公園の紹介とこの地域のことについて」と題しての児童と対話形式の講話があり国立公園は珊瑚とかけて全国に35箇所あるとの説明などがありました。また、万年荘の^{いのうえ しげと}井上重人支配人から、「新しくなった施設の紹介や、これからもみんなにたくさん利用してもらいたいこと。森林は、水や土、生き物の物質循環を通してとても大切な働きをしていること」を説明していただきました。

その後、屋外テラスに万年荘の方で長机や椅子を配置して下さり、当センターが準備した、「便利なスマホ台」作りをしました。使っているキットのパーツは4種類で、松野町の特産はウナギであり、滑床溪谷がある目黒川は四万十川の主な支流であることから、四万十市のゆるキャラ「アチチウナギのしまッチ」をメインにした下絵を描いた板はスギ、三角の角材はヒノキ、スマホを載せる板はキリを使っています。完成するとスマホやタブレットも載せれるように、軽い木、重たい木などの絶妙なバランスを計算して当センター職員が板や角材を加工して手作りしたものです。また、メモをはさめる木製ピンチは既製品を調達しました。

児童達は、「メッチャ楽しい。」と言って、ほのかに香る木の香りや肌触りの良さを感じながら、色を塗って仕上げました。

〇おわりに

児童の代表より「いろいろな体験がとっても楽しかったです。滑床の豊かな自然をこれからも大切にしていきたい。どうもありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

当センターとしても、今回の体験が、自然や森林への興味や理解につながっていくものと考えています。



森とも登山の様子（遊仙橋付近）



森とも登山の様子（雪輪の滝付近）



土佐清水自然保護官事務所のお話①



土佐清水自然保護官事務所のお話②



万年荘井上支配人のお話



しまっ子等製作の様子①



しまッチ等製作の様子②



しまッチ等製作の様子③



しまッチ等製作の様子④



しまッチ等製作の様子⑤

森とも登山時、「しまッチ、スマホスタンド作り」みほん



楽しく作ろうね。



できたよ①



できたよ②



できたよ③



できたよ④



集合写真（雪輪の滝）



集合写真（万年荘）

西土佐の魅力探究の旅～中学生「堂ヶ森」

登山（西土佐中学校）

○ 概要

四万十市立西土佐中学校では、令和3年度から、「地域の自然や文化、歴史に興味関心を持つための学習」を行っています。

この一環として、6月19日、一年生9名が「堂ヶ森」に登山することになり、当センターも同行して森林環境教育を行いました。

○ 「堂ヶ森」登山

当日は天候に恵まれ、開会の挨拶後、往路は、登山口（標高639m）からネイチャーゲームの「フィールドビンゴ」（からだの五感を使って自然の宝物を探すビンゴゲーム）をしながら登りました。また、ヒノキやユズリハ、アカマツ、ハイノキなどの樹木、リスが齧った松ぼっくりのエビフライ？ イスノキの虫こぶなどの学習も行いました。

遠くに見える鬼ヶ城山系の山脈や西土佐で一番高い山「横の森（標高1,200m）」を眺めつつ、標高が増すに連れてアカガシ、ヤブツバキ等の照葉樹林（常緑広葉樹）、モミ、ツガ等の針葉樹林、イヌシデ、ウリハダカエデ等の落葉広葉樹林と移り変わる四万十川流域の貴重な天然林の様子をつぶさに観察しつつ、木々の緑や鳥のさえずりを聴き、豊かな郷土の自然を楽しみながら約1時間30分で堂ヶ森山頂（標高857m）に到着しました。

山頂では「堂ヶ森の由来」や「女相撲」などの伝統行事の説明を聞き、山頂の堂ヶ森風景林のアカガシの大木や樹齢約500年とも言われるヤブツバキを見ました。

○「四万十の^{ひのきせんじん}桧仙人」

復路は、木々の緑のシャワーを浴びながらアカショウビンの「ヒュルルルル〜♪」との鳴き声も楽しみ、胸高直径1 m以上の天然ヒノキの群生地(旧保護林で四万十市との多様な活動の森「西土佐藤の川ヒノキ仙人の森」として設定)の中でもひと際目立つ、林野庁の「森の巨人たち百選」※に選ばれた「四万十の桧仙人」に到着しました。

江戸時代から約300年という時を経て現存する天然ヒノキ群生地の雄大さ、「四万十の桧仙人」を^ま目の当たりにした生徒達は、「木がでかい！」と凄く驚き、全員が「四万十の桧仙人」にタッチして大木のパワーに触れました。

ちなみに、四万十市西土佐地域のヒノキは「幡多ヒノキ」のブランドでも知られ、製材すると綺麗な木^{もくめ}目がでるのが特徴です。そして、天然ヒノキの群生地の中の登山道を下り、約1時間で下山しました。

「西土佐郷土の森」の駐車場で昼食をとった後、「西土佐山と川の物語」と題して、西土佐の見飽きることのない自然の美しさや豊かさ、歴史について説明しました。その後、生徒からのいろいろな質問に当センター職員が応えるなど質疑応答をしました。また、生徒は、この後で、駐車場付近のゴミ拾いをしてくれました。

最期に、バスで帰る途中には、杖ヶ尾^{つえがお}林道沿いの森林軌道の^{いこう}遺構を見学することもできました。また、この付近に大きな落石があって道を塞いでいましたが、四万十森林管理署藤の川・黒尊森林事務所職員の協力を得て除去したこともあわせて説明しました。

○おわりに

生徒の代表から、「山のこと、自然のこと、木のことなど、今回の登山を通して

新しい発見があって、とても良い経験になりました。ありがとうございました。」

とお礼の挨拶があり、無事に登山を終了することができました。

当センターとしても学校の要請に応えることができ良い一日でした。

※「森の巨人たち百選」

林野庁では、次世代への財産として健全な形で残していくべき巨樹・巨木を中心とした森林生態系に着目し、代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定しています。



堂ヶ森登山の様子



集合写真（堂ヶ森山頂）



四万十の桧仙人にタッチ



集合写真（森の巨人たちの看板前）

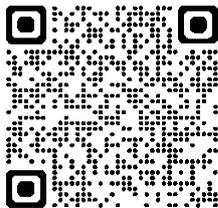


♪ 四万十川森林ふれあい推進センターのある旧四万十市立西ヶ方小学校の「時計草」

5月22日からまるで時計みたいな形の大輪の花をいっぱい咲かせています。

😊 たまるか〜♪♪

ふれセン、ホームページ



農林水産省 四国森林管理局

四万十川森林ふれあい推進センター

所在地：〒787-1602 高知県四万十市西土佐西ヶ方 586-2

ダイヤルイン：0880-31-6030

メールアドレス：shikoku_fureai@maff.go.jp

